

## 「誰かを支える大人に」

雫石町立雫石中学校

横手 光華

もし税金がなくなったら道路は穴だらけ、ゴミも回収されず散乱し、警察や消防を呼ぶ時さえお金がかかります。学校に通うには多くのお金が必要で、通えない子供も出てきます。租税教室で見た動画の中の日本は、想像すると恐ろしく、今でも鮮明に思い出せます。

私は母子家庭で祖父母と暮らしています。母は会社員、祖父はシルバー人材センターの会員、祖母はパートをしています。私は「母子家庭なのになぜやりたいことが不自由なくできるのだろう。」と不思議に思っていました。私は租税教室の後、税に関係があるか母が話していたことを思い出しました。私の暮らす雫石町では社会保障が手厚く、母子家庭は高校生まで医療費が母子ともに無料、制服などの学用品、修学旅行でかかるお金も援助されます。限られた人にしか使われないけれど、全ての子供達が健康で、誰もが平等に同じ教育を受けられるように税金が使われていて、与えられている機会を大切に一生懸命学ぼうと思いました。また、私の祖父が会員として働いているシルバー人材センターは、

「定年で仕事を辞めたけれどまだ働きたい。」「ずっと一人なのは寂しい。」という高齢者が今までの経験や能力を生かして働くことができる事業団です。祖父は仕事がある日はいつもより早起きをし楽しそうに働きに行きます。また、新しく入ったチームの仲間について話しをして生き生きとしています。全国の市町村にあるシルバー人材センターは公益法人として国や都道府県から援助を受けていて、歳出されていることを知りました。私は、高齢者が働くことで生きがいを得て元気に生活できる人が増えることで高齢者施設の負担も減り、更に高齢者の力が地域社会の活性化につながる素晴らしい取り組みだと思いました。そして、少子高齢化が進む日本に必要な取り組みに税金が使われていることに、うれしくなりました。そして、私の世代の人達に、税金は日本の未来を支える取り組みにも使われていることを伝えたいと胸が熱くなりました。

私は税金について知っていくほど、人のつながりと誰かを支え、誰かに支えられていることの幸せを感じました。税金があるおかげで、町営の陸上競技場は作られ練習ができるし、学校で仲間と一緒に学ぶこともできます。また、母子家庭でも家族と一緒に過ごす時間があります。たくさんの方が関わって誰かを支え合っている税金の仕組みは、自分の幸せだけでなく他者に幸せを分けてあげる、人の思いやりで作られていると感じました。

私はあと十年もしないうちに働いて消費税だけでなく、所得税も納めるようになります。「税金のせいで生活が苦しくなる」という考え方ではなく、「自分も誰かを支え、社会の役に立っている」と誇りに思い、誰かに支えられている安心感から誰かを支えている責任を持った大人になりたいです。